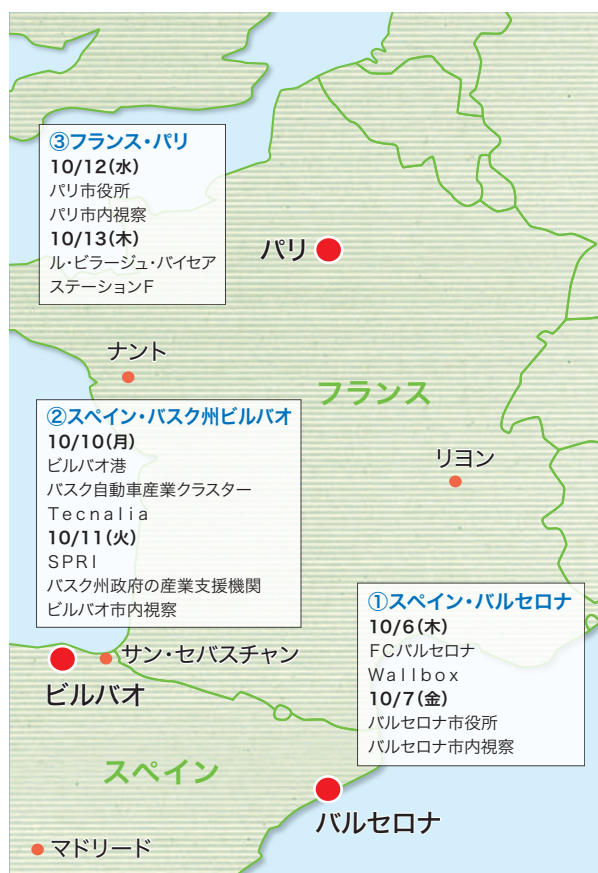


フランス・スペイン経済視察団

10月5日(水)～10月15日(土)において、中経連は水野会長を団長、大島副会長、安藤仁副会長を副団長、増田専務理事を団事務局長とする総勢32名の経済視察団を、フランス・スペインの3都市に派遣した。

スタートアップ・イノベーション、都市計画・まちづくり、エネルギー事情について、現地の企業や行政機関などの取り組みを把握する目的で視察団を派遣した。いずれの訪問先においても、行政の強いリーダーシップのもと、オープンイノベーションを用いた新規事業化やその支援に注力しており、優秀な人材を惹きつけるための魅力ある都市開発が活発に行われていた。

いる。これまでに「サッカーの新しいアナリティクス(分析・解説論)」「会場インフラのテクノロジー化」「選手のコンディション管理やパフォーマンス強化」などの実績を持つ。今後は、サッカーやスポーツの境界線を越えて、都市交通ソリューション事業などを手掛けていきたいとも考えており、世界の変容に貢献することを目指している。



2. Wallbox



スペイン

1. FCバルセロナ

世界的なサッカークラブであるが、オープンイノベーションにも力を入れており、2017年に「バルサ・イノベーション・ハブ」を立ち上げ、企業や大学などとテクノロジー分野で共同開発などを進めて

EV充電設備の設計・生産・システム開発を行うスタートアップで、ニューヨーク株式市場に上場を果たしたスペイン初のユニコーン企業である。洗練された設計デザインとカスタマイズにより使い手の利便性を向上させたことに加え、バルセロナという魅力的な街における人材確保が成功の秘訣だと思われる。



3. バルセロナ市役所

バルセロナ市は海と山に囲まれ、街の拡大が難しい中、サグラダ・ファミリアなどの芸術遺産の保全や市民のコミュニティ維持を前提とした計画的な都市再生を進めている。その結果、浜辺の



バルセロナネータ(湾岸リゾート開発地)の様子

リゾート地帯から工業地帯やイノベーション推進地区など、短時間でどこへでも移動できる生活の質が高いまちづくりを実現している。また、優秀な人材に住みたいと思わせる魅力あるまちづくりが、イノベーション・スタートアップを育てる重要なファクターとなっている。イノベーション推進地区ではデザイン性の高いビルが建ち並び、バルセロナネータ(湾岸リゾート開発地)では、1992年のオリンピックを機に、工場地帯から観光スポットへ大変革を成し遂げた。

4. ビルバオ港



ビルバオ港外観

サイテック・オフショア・テクノロジー社の浮体式洋上風力発電設備など、再生可能エネルギー開発に関する説明を受けた。サプライチェーンの大部分が、同地区の25km圏内を中心とした西欧諸国で完結していることや、発電設備を陸上で建造した後、運搬船に積み出し、沖合に曳航して稼働することなど、水深の深い沿岸地域に適した浮体式洋上風力発電設備の先進コンセプトの実証について詳しく学んだ。また、現在、バスク自治州政府は福島県と水素関連の取り組みにも注力している。



ビルバオ港視察前に、バスク自治州政府との懇談も行った。

5. バスク自動車産業クラスター (ACICAE)

オープンイノベーションを活用したクラスターの強さについて解説を受けた。複数の企業が共同で研究開発することは一般的に難しいが、試作段階などで工程を区切れば、互いのメリットを享受できるとの事例紹介があった。



両側の通路の先は、各プロジェクトの共同開発室に続いている。



6. SPRI (バスクビジネス開発機構)

SPRIはバスク自治州政府の産業支援機関である。同機関から、再生可能エネルギーの支援体制などの説明があった他、風力発電については、バリューチェーンがバスク自治州のみで構築されており、最大の強みとなっていることが紹介された。



7. Tecnalia Research Center

スペイン最大の応用研究・技術開発センターであり、東京大学、筑波大学などとも共同で活動を行っている。「1ユーロの投資で11ユーロの利益をもたらす」「1人の研究者が6人の雇用を創出する」など、経済的インパクトを数値化し取引先へ提供している点がユニークであった。

8. ビルバオ市内視察

かつて灰色で魅力のない工業都市だったが、新たな街のシンボルとしてアメリカからグッゲンハイム美術館を誘致するなど、大改革を遂げ、デザイン性豊かな建築物が建ち並ぶ魅力的な街へと生まれ変わった。



グッゲンハイム美術館とビルバオ近郊の街サン・セバスチャン

フランス

9. パリ市役所



スタートアップ支援、都市開発ビジョンについて行政の方針を確認することができた。既存の建造物を活かすため、地下鉄整備にも力を入れており、自動車を必要としないまちづくりを目指している。すでにパリ中心部では「道路の70%が歩行者・自転車レーン」という従来からの逆転現象が起きている場所もある。その他、「自動車保有数1/3」や「建築遺産リノベーション時のエネルギー消費1/10」などの目標を掲げている。



左側の道路が自転車レーンとなっている。



2050年パリのイメージ図 [出典:apur(パリ都市計画公社)]

10. ル・ビラージュ・バイセア

ル・ビラージュ・バイセアはステーションFより2年早く設立されたフランスの大手インキュベーターである。その特徴は「取引先のアクセラレー



ションプログラムをカスタマイズした2〜3年間の支援」「公的機関がパートナー」「地域に根ざして支援。大企業へのマインドセット(イノベーションを理解するための啓発活動)」の3点にある。また、スタートアップ企業・Lokalite社による、「消費者の食の選択支援を目的とした、食品の環境や栄養への影響に関する情報を提供するAI(人工知能)アルゴリズムの開発」の説明も受けた。

11. ステーションF

愛知県とも連携している、2017年に開設した世界最大級のインキュベーション施設を訪問し、フランスのスタートアップ・イノベーションの現状・課題について、現地のスタートアップ企業と意見交換を行った。



12. 特別講演会

国際エネルギー機関(IEA)の貞森恵祐氏ならびにオランダの総合エネルギー事業会社Eneco社の佐久間浩氏をお迎えし、講演会を開催。行政と企業の各立場から見た、欧州の厳しいエネルギー事情と現状を学んだ。



(国際部 川合 隆介)